
研修教材生成 AI の衝撃

～AI が教える未来! 企業における研修教材生成の新時代が到来～

ライフデザイン研究部 主席研究員 柏村 祐

1. 研修教材作成の難しさ

企業における研修は、新入社員の基礎知識の習得から、ベテラン社員のリスキリングまで多岐にわたり、企業の成長に大きな役割を果たす。研修を通じて、社員は専門的な知識や技術を身につける。また、企業文化や組織の価値観を理解し、共有することも可能である。これらの意義をもつ研修を成功させるためにも、適切な教材は不可欠である。

研修教材作成の難しさは、実際の業務や現場のニーズを的確に捉え、それを教材に反映させなければならない点にある。教材は単なる情報の集合体ではなく、その情報をどのように伝えるか、どうすれば受講者が理解しやすいかという点も考慮しなければならない。また、時代の変化や技術の進化に合わせて教材を更新し続けなければならないため、教材作成は常に進行形である。

近年、生成 AI を用いて研修教材の草案を作成できるようになってきている。研修の目的や内容に合わせた教材の草案を AI は短時間で作成することが可能だが、完璧な教材を AI のみで完結させることはまだ難しい。以下では、研修教材生成 AI の現状を概観し、その価値について述べる。

2. 研修教材生成のための 2 つのステップ

研修教材生成 AI は、研修したいコンセプトを入力することで、ビジュアルライズされたプレゼンテーション資料を瞬時に生成してくれる技術である。この AI の主要な目的は、教育者やトレーナーが迅速かつ効率的に高品質の教材を取得できるよう支援することである。初期の研修教材生成 AI では、生成される教材の質は必ずしも高いとはいえなかったが、近年の AI 技術の進化と深層学習の進歩により、その能力は大きく向上している。現在では、プロフェッショナルによって手作業で作成されたかのような高品質の教材を AI が自動生成できるようになってきている。これにより、研修の質の向上や時間の節約が期待されている。

以下、この AI の実際の使用例を 2 つのテーマに基づいて示す。ここでは、現代の AI 技術の代表例である「ChatGPT」と、中高年層へのキャリア支援が重要とされる現代背景を反映した「50 歳からのキャリア研修」という 2 つのテーマを取り上げ、研修教材生成 AI の実力を試してみた。

まず、生成 AI による「ChatGPT 企業向け研修講座」のプロセスは、研修教材コンセ

プトを生成するステップと高性能な研修教材生成 AI を利用するステップに大別される。1 つ目の研修教材コンセプトを生成するステップで、生成 AI に対して「ChatGPT の企業向け研修講座を開催します。メニューを作成ください」と入力したところ、生成 AI は ChatGPT 企業向け研修講座のメニュー案を生成した（図表 1）。

図表 1 生成 AI が提示した ChatGPT 企業向け研修講座案(セッション・主題・内容)

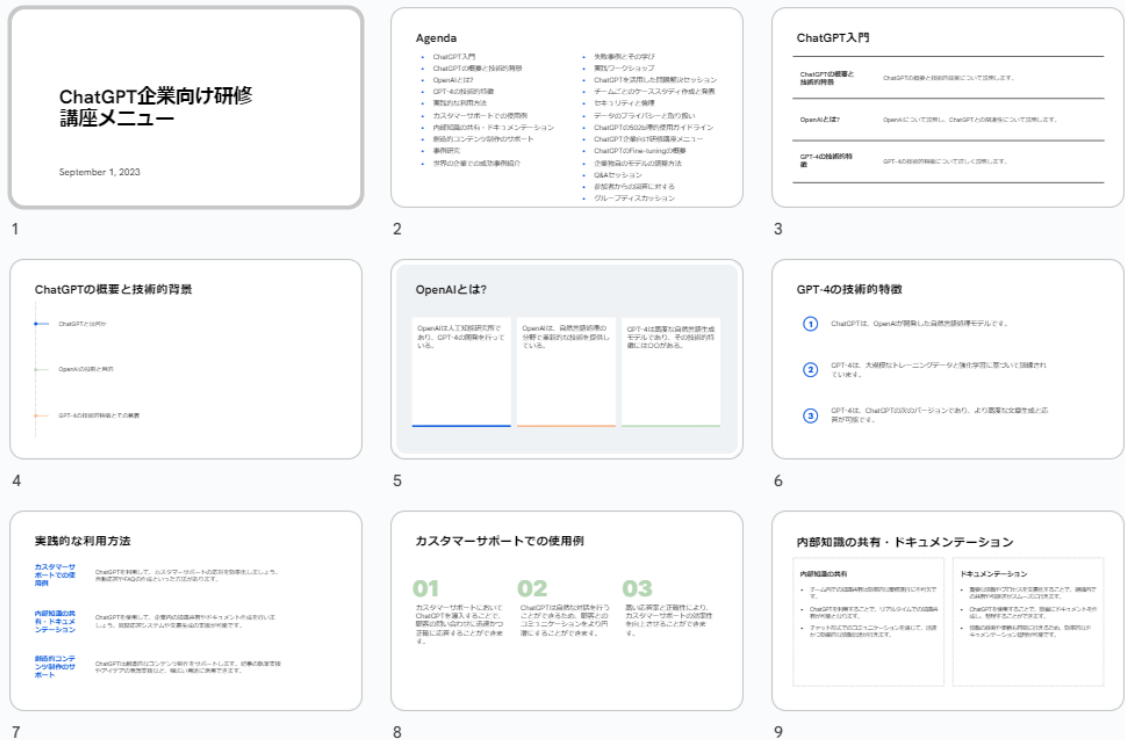
セッション	主題	内容
1	ChatGPT 入門	<ul style="list-style-type: none"> • ChatGPT の概要と技術的背景 • OpenAI とは? • GPT-4 の技術的特徴
2	実践的な利用方法	<ul style="list-style-type: none"> • カスタマーサポートでの使用例 • 内部知識の共有・ドキュメンテーション • 創造的コンテンツ制作のサポート
3	事例研究	<ul style="list-style-type: none"> • 世界の企業での成功事例紹介 • 失敗事例とその学び
4	実践ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> • ChatGPT を活用した問題解決セッション • チームごとのケーススタディ作成と発表
5	セキュリティと倫理	<ul style="list-style-type: none"> • データのプライバシーと取り扱い • ChatGPT の倫理的な使用ガイドライン
6	カスタマイズとチューニング	<ul style="list-style-type: none"> • ChatGPT の Fine-tuning の概要 • 企業独自のニーズに合わせたモデルの調整方法
7	Q&A セッション	<ul style="list-style-type: none"> • 参加者からの質問に対する回答 • グループディスカッション
8	まとめと次のステップ	<ul style="list-style-type: none"> • ChatGPT の将来的な展望 • 企業のニーズに合わせた継続的な学びの方法

資料: ChatGPT より筆者作成

その後、2 つ目のステップでは、さらに高性能な研修教材生成 AI を使用する。生成 AI の出力した情報をこの AI に入力し、30 ページの教材を生成する設定で実行したところ、数秒でビジュアライズされた教材資料が生成された（図表 2）。

生成 AI によって提示された ChatGPT 企業向け研修講座の教材資料は、ChatGPT の基本的な概要から具体的な利用方法、事例紹介、実践ワークショップ、そしてセキュリティや倫理に関する内容まで幅広く網羅している。特に、実践的な利用方法や事例研究を取り上げることで、参加者は ChatGPT をビジネスシーンでどのように活用できるのか、具体的なイメージをもつことができる。また、実践ワークショップを設けることで、実際に ChatGPT を用いた問題解決の手法を体験することができる点も評価できる。セキュリティと倫理に関するセッションは、AI 技術を実際の業務に導入する上で非常に重要なテーマであるため、この点を研修内容に盛り込むことは妥当であると思われる。

図表 2 出力された研修教材(サムネイルで9ページ分表示)



資料: Plus AI より筆者作成

次に、「50歳からのキャリア研修」のテーマについて確認すると、こちらのプロセスも、研修教材コンセプトの生成と高性能な研修教材生成 AI の利用の 2 つのステップに大別される。1 つ目の研修教材コンセプトを生成するステップでは、生成 AI に対して「50歳からのキャリア研修の講座内容を作成ください」と入力したところ、生成 AI は 50歳からのキャリア研修の講座メニュー案を生成した(図表 3)。

図表 3 生成 AI が提示した 50 歳からのキャリア研修講座案(セッション・主題・内容)

セッション	主題	内容
1	イントロダクション： 50歳を迎えてのキャリアの見直し	・現代の労働環境における中高年の位置づけ ・シニアの強みとチャンス
2	セルフアセスメントとキャリアの棚卸し	・自分の価値観、強み、興味の再評価 ・キャリアステージの確認 ・転職・独立の選択肢
3	デジタル時代のスキルアップ	・IT・デジタルツールの基本操作 ・オンラインコミュニケーションの活用方法
4	メンタルヘルスの重要性	・ストレスとの向き合い方 ・ライフワークバランスの達成
5	現代の労働トレンドへの対応	・リモートワーク、フレックスタイムの活用 ・フリーランス・パートタイムのチャンスとリスク
6	ネットワーキングの技術	・現代のネットワーキングの方法 ・50歳からの人脈の作り方と深化のコツ
7	金融リテラシーとリタイアメントプランニング	・資産の管理と増やし方 ・定年後の生活設計
8	健康管理とライフスタイル	・50歳を過ぎての健康の維持・増進 ・アクティブな老後のためのライフスタイルの見直し
9	個人ブランドの構築	・自分のストーリーを伝える方法 ・ソーシャルメディアを活用したブランドアップ
10	実践セッション： キャリアプランの策定	・参加者が自分のキャリアプランを考え共有するセッション ・フィードバックとアドバイス
11	終わりに： 継続的な自己投資とキャリアの成長	・常に学び続ける意識の養成 ・モチベーションの維持方法

資料：ChatGPT より筆者作成

そして、2 つ目の高性能の研修教材生成 AI を利用するステップでは、生成 AI の出力した情報を研修教材生成 AI に入力し、20 ページの教材を生成するよう指定し、実行ボタンを押したところ、数秒でビジュアライズされた教材資料が出力された（図表 4）。

生成された教材資料を確認したところ、50 歳以上の人が現代の労働環境で直面する課題や機会に焦点を当てて各セッションが構築されていることがわかる。特にセッション 3 の「デジタル時代のスキルアップ」やセッション 5 の「現代の労働トレンドへの対応」は、テクノロジーの進化と変化する労働環境に対応するための必要なスキルを身につけることの重要性を示している。また、セッション 7 の「金融リテラシーとリタイアメントプランニング」は、経済的な安定を追求するための知識やスキルを身につけることの重要性を強調している。一方で、セッション 9 の「個人ブランドの構築」やセッション 11 の「継続的な自己投資とキャリアの成長」は、自分自身の価値を最大限に活かし、キャリアを持続的に成長させるためのアプローチを提案している。これらのセッションは、50 歳以上の人が新しいキャリアのステージで成功を収めるための戦略的な考え方やスキルを習得するのに役立つであろう。

図表4 出力された研修教材(サムネイルで9ページ分表示)



資料: Plus AI より筆者作成

3.AI を活用した研修教材の未来

以上のように、最近の技術進化により研修教材の草案やたたき台を AI が自動で生成することが可能になった。そのため、従来かかっていた時間やコストが大幅に削減されるだろう。複雑なテーマや分野に関する研修教材を作成する際、最初の段階での情報収集や構成の作成は非常に時間がかかっていた。しかし、AI の助けを借りることでこれらのプロセスが短縮される。また、従来は人がスライドを1枚1枚手作業で一から作成していた研修教材の作成工程は、時間も労力もかかるものであった。しかし、AI の活用により、そのような手間が大幅に削減される。事前にデータや情報を AI に入力するだけで、AI がそれを基に最適なスライド構成やデザインを生成し、研修の目的やターゲットに合わせて適切な教材を提供することが可能となる。このような AI の活用は、研修教材の生産性を大幅に向上させるとともに、教材の品質や一貫性も確保することができる。

しかし、AI が生成する研修教材や資料は、会社独自のものでない一般的なもの、あるいはマニュアルのように感じる場合がある。そのため、そのままの教材を使用すると、参加者や学習者が単調で独自性のない内容だと感じるかもしれない。特に、企業の文化や特定のターゲット層に合わせてパーソナライズされた内容が求められる場面で、AI の生成する標準的な内容だけでは十分ではない。

ここで、人間の役割が重要になる。人はその企業独自の情報や経験を有しており、これらの要素を取り入れて研修教材をカスタマイズすることで、より実践的な教材を作成することが可能となる。たとえば、実際の業務経験やエピソードを取り入れることで、教材に深みやリアリティをもたせることができる。また、学習者の背景やニーズに応じて、具体的な事例や演習を追加することで、実践的な学びの場を提供することもできる。将来的には、人間とAIの連携により、より高品質で効果的な研修教材を生み出すことができると考えられる。

さらに、研修教材の作成にAIを活用すれば、教材の作成に関する担当者の負担が軽減され、よりクリエイティブな業務や高度なタスクに集中することができるようになる。

今後、この研修教材生成AIについては、草案生成の精度を高めることに加え、人間が独自性や実践性を加えてカスタマイズできるような進化が求められる。このような人間との連携を取り入れることで、受講者のニーズや背景に合わせた最適な教材を提供することができるようになる。特に、実際に経験したことを講師が話すような研修教材に仕立てられれば、教材のクオリティをさらに向上させ、研修の価値をより高めることができるだろう。技術進化を活用し、AIと人間が協働する新しい研修教材の作成の形を追求することが、今後の企業研修において重要な取組みの1つになっていくと考えられる。